

ひまわり在宅サポートグループ

症 例 概 要 利用者氏名：G・A 様 （男性60代 障害支援区分6 要介護5相当 ）

利用期間：平成23年6月～現在

経過：平成22年8月自宅付近を自転車で走行中、用水路に転落し頸髄損傷にて両上下肢不自由となる。平成23年5月に退院し在宅サービスを利用し生活を送る。県の地域リハビリテーション事業を活用し、電動車椅子の導入やコミュニケーション機器と取り入れ、自立した生活を目指している。デイサービスは週3回利用している

内 容

デイサービスでは午前には障がい者スポーツを取り入れています。G様は両手が不自由な為、自分は「ボールをつかんだり投げたりするのは出来ないの見学しています」と数年間活動に消極的で活動には参加しておりませんでした。

数種類のスポーツを取り入れています。ボールを投げる・ディスクを飛ばすなど手を使う競技がほとんどで、このままではG様は活動に参加出来ないのではないかと思いました。

自宅ではIPADなどコミュニケーションツールなど導入したり、順調に道具の活用がうまく進んでいるので、何か補助道具があればスポーツにも参加できるのではないか、スタッフ間で話し合いました。

いつも行っているボッチャと言う競技が、補助具がルール上認められている事を知り、手で投げなくても補助具を使用しボールを転がす事ができるようにG様用に補助具を作成しました。

材料は身近なものを使う様にし、塩ビのパイプに取っ手を付け角度を調整できる物を作りました。実際使用して持ち手の感触や角度を毎回調整し、何度も試行錯誤しようやく使いやすい形となりました。

それからは、積極的にスポーツに参加する機会が多くなり、他ご利用者との交流も増え楽しく活動に参加できるように様になりました

今では、更なる改良を続けており自宅での訪問リハビリ時もセラピストの協力を得ながら新たなスポーツに対応できる補助具を作成しています。

また、自身の経験から、他利用者にも同じような補助用具があれば活動に参加できるようアドバイスをを行うなど、活動に対して自ら積極的になりました。できないと思っていた事が、1つの事がきっかけで意欲的な事に繋がった事例だと思っています。これからも活動全体を活性化する為にも、色々な事にチャレンジしていきたいと思っています。